

みんなで目指す岩手の将来像のための「いわて県民計画(2019~2028)」。10の政策分野から、今回は「仕事・収入」をピックアップ! 新しい取り組み「スマート農業」を紹介します。

スマート  
農業  
とは?

## 最新技術を活用する新しい農業のかたち



岩手の農業は、高齢化や担い手の減少によって、人手不足が深刻化しています。その対策として県が取り組み始めたのが「スマート農業」です。

ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用して、省力化、精密化、栽培ノウハウのデータ化を図りながら、高品質生産の実現を目指すスマート農業は、農作業の負担を軽くするとともに、栽培技術を継承しやすくし、新規就農者の確保にも期待されています。

### 県が目指すスマート農業の方向性

- 1 トラクターなど農業機械の自動走行による  
**超省力・大規模生産を実現**
- 2 センシング技術など精密農業で**作物の能力を最大限に発揮し、多収・高品質生産を実現**
- 3 アシストスーツによる軽労化、除草作業の自動化により、**きつい作業、危険な作業からの解放**
- 4 農機の運転アシスト装置、栽培ノウハウのデータ化などにより、**誰もが取り組みやすい農業を実現**
- 5 クラウドシステムによる生産情報の提供などにより、**消費者・実需者に安心と信頼を提供**



### 県内のスマート農業技術の取り組み

2019年度は「いわてスマート農業祭トリニティ」やシンポジウムの開催、SNSを使った情報発信を通じて、スマート農業への理解浸透を促す試みを行いました。

県農業研究センターの実証研究では、ドローンを使った水稻生育画像診断や農薬散布、害鳥の追い払い実験などを行いました。また、県立農業大学校ではスマート農業をカリキュラムに取り入れ、外部講師を招いた最新技術の学習を実施。自動操舵のトラクターや田植え機、環境制御温室など、実践的な学習環境を整備しています。

県内各地でのスマート農業技術の導入事例は**別表**をご覧ください。

#### ●用語解説

**【生産管理情報システム】**電子地図の利用。スマートフォンやタブレットで作業指示を共有し、生産管理を合理化。**【機械作業の自動化】**農機走行の高精度化や一部自動化。ドローンによる農薬散布やロボットによる畦畔除草。**【環境制御】**温湿度制御と炭酸ガス濃度制御を組み合わせ、施設野菜の光合成能力を十分発揮させ増収させる技術。**【飼養管理の省力化】**牛の発情や分娩の予兆を機械で捉えることで、管理労力を軽減。

別表 県内でのスマート農業技術の導入事例

分野	内容	効果	県内の導入事例
GPS活用農機による精密農業	GPS情報を利用するトラクターや田植え機、コンバインなどの利用	耕耘(こううん)、施肥、収穫などの精度向上。自動操舵による軽労化	盛川農場(花巻市)、金田一営農組合(二戸市)、西部開発農産(北上市) など
施設園芸環境制御	施設内環境等のデータ収集や自動環境制御	生産性向上と労力軽減	佐々木農園(花巻市)、若江農園(盛岡市) など
水田センサーの利用	水位や水温、気温等のリアルタイム把握	水田の見回りに必要な時間の削減	リアル(花巻市)、金田一営農組合(二戸市) など
畜産経営における作業の軽労化	発情や分娩の兆候のメール通知システム	監視作業の軽労化と分娩事故の低減	発情監視システム、分娩管理システム(県内各地)



#### 安全

災害をはじめとしたさまざまなリスクへの備えが少なく、事故や犯罪が少ない、安全で、安心を実現することができる岩手



#### 居住環境・コミュニティ

不便を感じないで日常生活を送ることができ、また人や地域の結び付きの中で、助け合って暮らすことが出来る岩手



#### 教育

学びや人づくりによって、将来に向かって可能性を伸ばし、自分の夢を実現できる岩手



#### 家族・子育て

家族の形に合ったつながりや支え合いが育まれ、また、安心して子育てをすることが出来る岩手



#### 健康・余暇

健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、また自分らしく自由な時間を楽しむことが出来る岩手

昨年スタートした「いわて県民計画(2019~2028)」のテーマは「幸福」。一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会を実現していくため、10の政策分野を設定し、取り組みを展開していきます。

いわて県民計画  
(2019~2028)とは